

『部会および研究会設置(継続)趣意書(電子メール書式)』

(社)計測自動制御学会
部会・研究会委員長殿
(部会研究会事務局宛)

2008 年 11 月 22 日

受付番号(記入しない)：

部会および研究会の名称(日本語名)： 次世代制御技術調査研究会
(英語名)： Research Committee on Future Control Technology

発起人(正会員 10 名程度以上)：

__ (氏名)浅野一哉 (所属)JFE 技研 (株)
__ (氏名)中川繁政 (所属)住友金属工業 (株)
__ (氏名)飯野 穰 (所属)(株)東芝
__ (氏名)大谷哲也 (所属)横河電機 (株)
__ (氏名)山口高司 (所属)(株)リコー
__ (氏名)浅井 徹 (所属)大阪大学
__ (氏名)石 建信 (所属)横河電機 (株)
__ (氏名)角谷泰則 (所属)住友金属工業 (株)
__ (氏名)吉河章二 (所属)三菱電機 (株)
__ (氏名)平田丈英 (所属)JFE 技研 (株)

連絡担当者：

__ (氏名)浅野一哉 (所属)JFE 技研 (株) 計測制御研究部
__ (連絡先)k-asano@jfe-rd.co.jp
__ (住所)210-0855 川崎市川崎区南渡田町 1-1
__ (電話)0436-75-5768

部会および研究会設置(継続)の目的(400 字程度)：

産学連携強化のためには企業側のニーズとシーズ技術のマッチングが肝要であるが、企業における制御の現状、ニーズ、将来展望は産業によって異なり、まずそれを明らかにする必要がある。制御技術部会では、2008 年度に 3 回の公開研究会を開催し、大学、公的研究機関、企業から講師を招き、主としてモデリング、シミュレーション技術についてシー

ズ技術および適用例についてご紹介いただいた。適用例は、工業的なプロセスのみならず、大気、海洋、農学など広範囲に渡っていたが、その中で各技術に分野を問わない普遍性があること、一方で分野ごとに技術開発指向の差異があることが明らかになってきている。

そこで、制御技術部会の特長を活かして産業横断的に見て現状の課題、ニーズ、将来に期待する技術を明らかにし、制御技術の今後の方向性を考えるための調査研究会を提案する。

部会および研究会の担当分野(400 字程度、具体的に)：

計測自動制御学会という場を活用し、各産業界で制御の研究開発に従事されている方、さまざまな産業に制御技術、装置を提供されているベンダーの方、大学で制御の研究に携わっておられる先生方にお集まりいただき、以下のように進める。

- ・産業ごとの現状、ニーズ、将来の展望などを調査し、認識を共有化する。
- ・海外の制御技術の動向にも着目し、各分野の方にご紹介いただく。
- ・上記を踏まえて、モデリング、制御理論、数理的、統計的アプローチを含めて今後さらに深めるべき技術を抽出してニーズとシーズのマッチングを図り、技術領域のベンチマーク、未来予測、技術戦略マップとしてまとめる。

設置(継続)の期間

(部会の設置期間は3年以内、設置の時期は1月または7月を原則とする)：

2009 年 1 月～2010 年 12 月、2 年 0 ケ月

所属を希望する部門

(順位を付して3つまで記入)： 1. 制御部門 2. システム・情報部門 3. 産業応用部門

活動計画(事業の名称、回数など)： 運営委員会と研究会を年3回

制御技術部会および他の調査研究会との連携も念頭に置く

部会および研究会運営責任者予定者(氏名、所属)：

___主__査： 浅井 徹，大阪大学

___副主査：

___幹__事：

会員登録制の採用の有無： 無

予算計画：

予算計画：初年度 200,000 円 次年度 100,000 円